

平成 28 年 7 月実施 生徒による授業評価 まとめ

木曾青峰高等学校

本校では、7月に、全生徒に対し、全職員・全講座に関する「授業評価アンケート」を無記名で実施いたしました。座学用・実習を伴う科目用などの4種類のアンケート用紙を作成し、実施しました。それぞれのアンケート用紙に6項目の調査項目と記述部分を設けました。

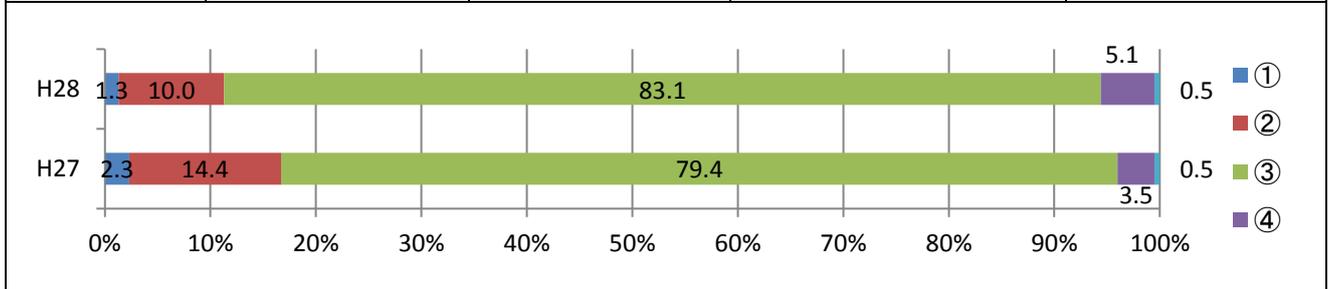
座学用アンケート項目6項目・実習を伴う科目用アンケート共通の3項目の全日制・定時制を合わせた結果は下記の通りです。  
**単位は全て%、カッコ内はH27年度**

【座学中心の科目用授業アンケート結果】・・・3725件				
Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
27.9 (31.1)	36.1 (32.5)	33.6 (33.5)	2.0 (2.3)	0.4 (0.6)
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
27.7 (31.4)	36.3 (31.9)	32.5 (29.4)	3.2 (5.9)	0.3 (1.4)
Q 3. 問いかけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか。				
①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
28.3 (27.2)	29.6 (26.4)	38.8 (39.5)	2.7 (5.4)	0.5 (1.5)

Q 4. 授業の難易度は適切ですか。				
①難しい	②やや難しい	③ちょうどよい	④やや易しい	⑤易しい
3.0 (4.3)	19.0 (19.3)	75.8 (74.8)	2.0 (1.3)	0.3 (0.3)



Q 5. 授業の進む速さは適切ですか。				
①速い	②やや速い	③ちょうどよい	④やや遅い	⑤遅い
1.3 (2.3)	10.0 (14.4)	83.1 (79.4)	5.1 (3.5)	0.5 (0.5)



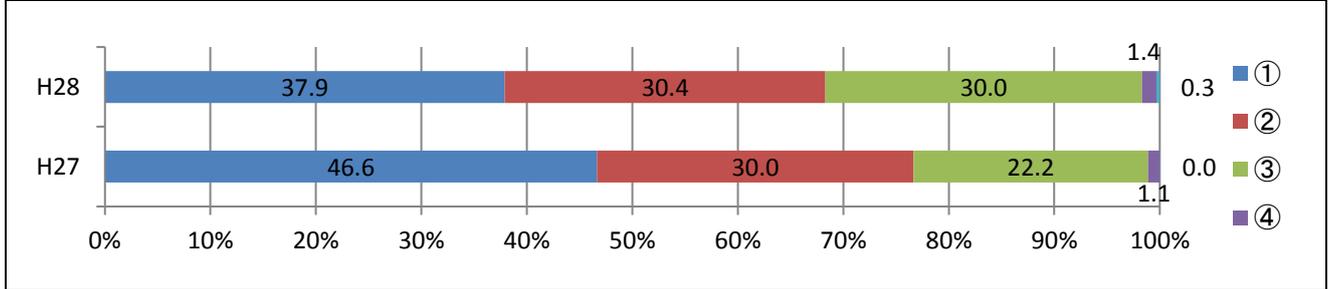
Q 6. 課題の量は適切ですか。				
①多い	②やや多い	③適切である	④やや少ない	⑤ない
1.4 (2.6)	4.5 (7.0)	77.8 (69.0)	1.7 (1.7)	14.6 (19.7)



【実習中心の科目用授業アンケート結果】 ……2066 件

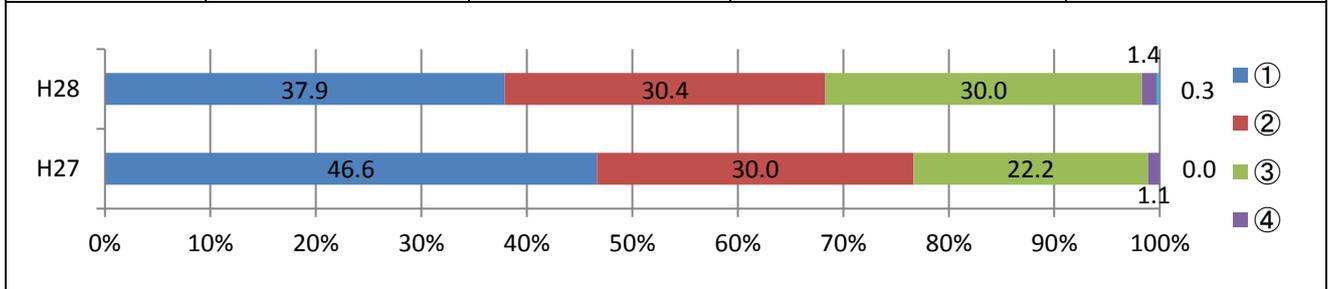
Q 1. 授業に意欲的に取り組んでいますか。

①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
37.9 (46.6)	30.4 (30.0)	30.0 (22.2)	1.4 (1.1)	0.3 (0.02)



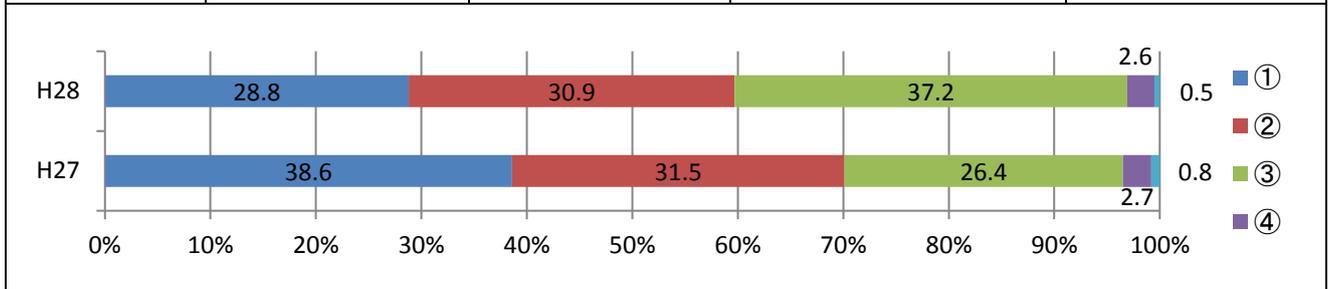
Q 2. 授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。

①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
33.0 (43.4)	31.7 (31.3)	37.2 (22.6)	2.9 (2.7)	0.6 (1.0)



Q 3. 技術の習得など理解を確かめながら授業が進められていますか。

①そう思う	②ほぼそう思う	③普通	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
28.8 (38.6)	30.9 (31.5)	37.2 (26.4)	2.6 (2.7)	0.5 (0.8)



なお、以下に各教科の分析内容と授業改善の方向性についてまとめました。

【全日制】

1 分析した内容（教科毎の集計と個人の集計の比較、自由記述から等）

教科	ま と め
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業に意欲的に取り組んでいるか」「授業は充実したものになっているか」「問いかけや小テストなどを行っているか」という質問を中心に判断すると、「そう思う」「ほぼそう思う」が6割以上になる。授業としてはおおむね良好と思われる。</li> </ul>
地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業に意欲的に取り組んでいるか」という質問の回答は、67%が「ほぼそう思う」であった。但し、「授業が興味関心や意欲を高め、分かりやすく充実したものとなっている」と答えた生徒が昨年に比べ減少しているのが気になるところである。</li> <li>・授業の難易度は、「ちょうど良い」ということだが、小テストや問いかけは少なく、講義形式の授業になっている。地歴公民については、やることが多く、問いかけなどしていると前に進まないもどかしさがある。</li> <li>・「授業の進む速さ」は「ちょうど良い」ということなので、このまま進めたい。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業は充実したものになっているか」という質問に対して、約7割の生徒が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答しており、習熟度別授業の効果が表れていると考えられる。</li> <li>・「課題の量は適切ですか」という質問に対して、「多い」「やや多い」の回答が16%で、他教科よりも多いが、力をつけるために必要な課題である。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の取り組みの姿勢は昨年に比べて良くなっている。</li> <li>・「授業の難易度は適切ですか」という質問の回答をみると、1年生物はやや優しいと感じている生徒がいる。</li> <li>・「授業の進む速さは適切ですか」「課題の量は適切ですか」という質問の回答をみると、昨年の反省から授業改善をした結果が現れている。</li> <li>・課題等については、個々の受け取り方が違うらしく、具体的な指定がされないと課題に取り組めなかったり、予習や復習課題を課題として認識していない生徒もいる。</li> <li>・丁寧にやっているが若干丁寧すぎて受け身になっている生徒もいる。また、成績上位生であっても基礎基本の定着ができていない生徒もいる。</li> </ul>
保健体育	<p>〈体育〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「意欲的に取り組んでいるか」という質問に対して約8割の生徒が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答していることから生徒自ら積極的に取り組んでいると考えられる。</li> <li>・「技術の習得など理解を確かめながら授業が進められているか」という質問に対して「あまりそう思わない」「そう思わない」が1%の回答だった。生徒に見合った難易度の授業が展開できていると考えられる。</li> </ul> <p>〈保健〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業は充実したものになっているか」という質問に対して「そう思う」「ほぼそう思う」という回答が67%なのに対して「普通」と回答した生徒も33%おり、なかなか保健の学習に興味を持たない生徒もいることが考えられる。</li> </ul>

芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業に意欲的に取り組んでいるか」という質問に対して、約8割の生徒が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答しており、生徒の授業に対する積極的な姿勢が見受けられる。</li> <li>・「授業の難易度は適切ですか」という質問に対して、6割の生徒が「普通」と回答しているが、「授業の進む速さは適切ですか」では9割の生徒が「ちょうど良い」と回答している。難易度の質問で「普通」と回答している生徒の中には授業の難易度が自分にとってどの程度なのかをわかっていない生徒もいるのかもしれないと感じた。</li> <li>・「実技の量は適切ですか」という質問に対して、教員は実技の量が少し多いと感じていたが、9割の生徒が「適切である」と回答している。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業に意欲的に取り組んでいるか」の質問に対して、「そう思う」と回答した生徒が3割を超えた。英語に苦手意識を持つ生徒が多いが、概ねまじめに取り組んでいる様子が見られる。</li> <li>・授業の難易度は「難しい」と答えた生徒はわずかであり、1・2年生の授業に関しては、習熟度別の授業が良い効果をもたらしていると思われる。</li> <li>・授業を進めるスピードについても、上記と同じことが言える。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業に意欲的に取り組んでいるか」という質問に対しては「そう思う」「ほぼそう思う」が58%と半分強を占めており、他教科と比べると大差はないものの全教科の中では最も低く、生徒の意欲を高めるような授業展開を熟考したい。一方「あまりそう思わない」「そう思わない」は3%で、そのように感じている生徒実数は8名程度であった。今後、必修教科における生徒の学習意欲の向上が課題であると考えられる。</li> <li>・「授業は充実したものになっているか」に対しては、「あまりそう思わない」が5%おり、数字としては大きくないものの、家庭科受講生徒280名のうち13名いることにも着目したい。</li> <li>・「実技の量は適切であるか」の質問は、「やや少ない」「少ない」が22%（約61名）と高めであった。これは、実習に入る時期が学年および科目により異なることがその理由であると思われる。</li> </ul>
森林環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業に意欲的に取り組んでいるか」「授業は充実したものになっているか」「技術の習得など理解を確かめながら授業が進められているか」「安全確保に配慮がされているか」などの質問については「そう思う」の評価をする生徒が減少している。生徒の授業に対する希望などを把握するのに、多少の時間がかかったことが原因ではないかと思われる。今後学期が進む中で改善していきたい。</li> </ul>
インテリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学に関して、生徒はほぼ意欲的に取り組んでいる。小テスト等で理解度を確かめながら授業を行い、その結果が「授業は充実したものになっているか」「理解を確かめながら授業が進められているか」の回答結果で見てとれる。</li> <li>・情報の授業では昨年に比べて改善され、生徒も意欲的に取り組み、理解も深まっていると感じる。</li> <li>・実習の授業は2・3年生になると個人での制作が主であるため、「授業に意欲的に取り組んでいるか」「授業は充実したものになっているか」「技術の習得など理解を確かめながら授業がすすめられているか」は昨年と比べ変化は見られない。</li> </ul>

2 今後の授業で改善したほうがよい点等

教科	ま と め
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一口に国語といっても、現代文と古典では基本的な中身も違い、学習方法も違う。現代文に比べて、古典は第2外国語に近く、習熟に時間もかかるし、苦手意識も強くなる。センター試験でも個別に見れば一番平均点が低いのは古文であり、本校も同様である。まして受験に必要な講座ではその傾向が強い。考える力を身につけさせる練習として、繰り返し定着させるほかはない。また図書館との連携を考えて進みたい。</li> </ul>
地歴・公民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価の面で低く出てしまっているので、生徒一人ひとりの様子を確認しながら、進めて行かなければならない。但し、全員の生徒が理解するまで待っていると、先に進めてもらいたいと思っている生徒もいるので難しいところである。地歴公民の授業は、生徒がいかに興味を持てるようになるかが課題である。</li> <li>・いろいろなところで身近な問題として捉えられるよう工夫し、指導していきたい。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問いかけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか」の質問で「そう思う」の回答が9ポイント低下している。講座ごとの視点に立って、小テストなどをこまめに行っていきたい。</li> <li>・「課題の量は適切ですか」という質問に関しては、他教科と課題の締切日が重ならないようにするなど他教科と連絡を取り合って調整をしていきたい。</li> <li>・自発的な学習が行えるように、興味関心を引き出す内容をさらに授業に取り入れていきたい。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年の生物はペースを上げ、その他の科目は生徒の状態を見ながらペース配分していきたい。</li> <li>・単位数が少ない普通科2年物理はプリントを活用するなどして不足を補いたい。</li> </ul>
保健体育	<p>〈体育〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「運動量が適切か」という質問に対して「適切である」と回答した生徒が8割を超えているが、運動が得意な生徒と苦手な生徒の二極化は深刻で、ますます差がうまれている印象がある。少しでも二極化を解消していくための改善や授業内容の工夫が必要だと感じた。</li> </ul> <p>〈保健〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より興味関心を抱いてもらうためにアクティブラーニングなどを積極的に取り入れた授業作りが必要だと感じた。</li> <li>・映像などの視覚教材などを積極的に利用する。</li> </ul>
芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでと同様、知識、技術の定着を確認する場を設定していきたい。</li> <li>・自由記述欄には前向きな記述が多かったので、それに答えられるよう教材研究をしていきたい。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別ではあっても、やはり講座内の理解度に差が出てくるので、生徒の様子を見ながら進度を調整したい。</li> <li>・生徒の意欲を高めるような授業展開を工夫したい。</li> <li>・ALTの授業を可能な限り増やしたい。</li> <li>・生徒が英語を使って行える活動を増やしていきたい。</li> </ul>

家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意欲を引き出す、教師側の努力が必要である。</li> <li>・限られた時間と実習費の中で、必修科目にどれだけ実技を入れられるかも、教師側の力量である。</li> </ul>
森林環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業中の安全確保に配慮がなされていますか」という質問項目の「安全確保」については安全教育を行なう中で意識の向上を図りたい。</li> </ul>
インテリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学は生徒の理解の差をどのような形でなくしていけるかが必要である。現在行っている、小テストや授業内での工具を使った実演授業など、興味関心を高め、さらなる工夫や改善をしたい。</li> <li>・実習系の授業では現状のままが良いと思うが、何かもう一工夫欲しい。内容を少し変え、変化があってもよいのではと考える。実習での安全確保については事故の無いよう毎時間心がけている。もう一度、職員の中で確認しさらに安全に努めたい。</li> <li>・インテリアの専門的な授業を職員が一丸となって展開し、生徒たちが更に深い内容に触れられるよう努力する。また、インテリアコーディネーター等をはじめとする様々な資格を生徒自らが積極的に取りにいけるような学習環境、呼びかけの体制を整える。</li> </ul>

### 【定時制】

#### 1 分析した内容（教科毎の集計、自由記述から等）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には、ほぼ予想した通りの結果で、特に偏った結果ではなかった。</li> <li>・定時制全体で見ると、全般的に「普通」と回答している割合が多い。</li> <li>・「授業に意欲的に取り組んでいるか」については、昨年と比較すると「普通」から「ほぼそう思う」に10%程の変化が見られた。</li> <li>・「授業は充実したものになっているか」「問いかけや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか」については、昨年と比較して「あまりそう思わない」から「そう思う」「ほぼそう思う」「普通」に数%変化しており、僅かながらではあるが改善されたと思われる。</li> <li>・「授業の難易度は適切ですか」「授業の進む速さは適切ですか」「課題の量は適切ですか」では、「ちょうどよい、適切である」が増加し、概ね昨年と比べて生徒の実態に合わせた内容や速さになっていると思われるが、習熟度別の授業を実施していない教科の中には、少数ではあるが、内容が難しいと感じている生徒もいることや、「もっと速く進めて欲しい」「ゆっくり進めて欲しい」という要望もあるため、難易度や進める速さに一層のバランスが求められている。</li> </ul>
---

#### 2 今後の授業で改善したほうがよい点等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が興味、関心をもてそうな、わかりやすい教材を、さらに研究し扱っていく必要がある。</li> <li>・毎時間、小テスト（書き取り等を中心に5分程度）を実施する。</li> <li>・国語では詩歌、コラム、エッセイ（短編）を毎回朗読指導することを、試しに実践躬行してみる価値がありそうである。</li> </ul>
--

## 【まとめ】

このアンケートの最大の目的は授業の改善にあります。授業は生徒と教師、一緒に作るものです。このアンケートを通じて、どの学年・どの学科・どのクラス・どの講座でも「授業第一主義」であることを互いに再確認し、家庭学習も含め、より一層の自律的な学びを目指すよう努力しています。